コロポックルの里から
NO.56
サンユー農産の今をお届けする　2016年12月号

ありがとう便り

農園の人々や作業風景、四季折々の景色や出来事など
北海道は仁木町で繰り広げられるサンユー農産の裏側をご紹介します。

コロポックルの里農園の冬のしごと

全ての農産物の収穫が終り、始めにする事は、畑のあとかたづけです。

春に苗を植える時"マルチ"と言う穴のあいた黒いビニールを、畑に貼り、

ビニールの穴の中に苗を植えると、黒いビニール部分には、日光が当たらないので雑草防止になるのですが

この"マルチ"を、畑にのこさないように、きれいにはがします。

"マルチ"を止めるのに使用した"ピン"も全て回収します。

畑に残った収穫後の作物の根や茎、雑草などを、ロータリーテーラーで細かく裁断しながら、浅く土にすき込みます。

土の中に空気をたっぷり含くませ、かくはんする事で、植物は、わっくりと、分解していきます。

その上に雪が積ると、雪にふくまれるミネラルが融けあって、春には、とても良い土壌が出来上がります。雪国ならではの天然肥料の完成です。

雪融けは、木の根元から始まります。木の根元を中心に、ドーナッツ状に雪が融けて、土と雪の間に、空洞が出来ます。そこがねずみの巣になってはいけませんので、

足で踏み固めて、空洞が出来ないようにします。そうして、雪融けを待ちながら次の作づけの準備をはじめるのです。

雪かきは広い敷地の雪をかたづけて、

工場や倉庫の屋根や

果樹や雨よけハウスの"トイ"の雪もおろします。

また、果樹の幹や枝に隠れている"越冬害虫"を、ブラシで落します。

ジュースのビン詰め加工と雪かきに明け暮れます。

コロポックルの里農園では、冬の間に果樹の手入れをします。

整枝（せいし）←果樹の形を整えます。

剪定（せんてい）←日当りや風通しが良くなるように、枝をデザインします。

誘引（ゆいん）←枝を正しい方向へ引っぱります。

これらの手入れをすることで、美味しい実がなる、元気な木が育つのです。

雪が積ると地面が高くなりますので、サクランボやプルーンなどの果樹の剪定がとてもやりやすくなります。

農園だより

今年は、野菜の値段が高いですよね。葉物、根物ともに価格が高騰しているため、主婦の皆さんはレシピのやりくりなど苦労されているのではないでしょうか。この野菜の高騰は、九月ごろから続いていますが、その原因は天候不順によるものと言われています。特に、例年より遅くに発生した台風が、かなりの打撃を与えたようです。

ニュースでも大きく取り上げられましたが、北海道では観測史上初めて、一年に三回台風が上陸する（しかも、三つとも一週間以内に上陸！）という状況が発生し、農業全体に大きな影響を及ぼしました。また、八月というかなり重要な時期に台風が来たことにより、日照不足が発生したことも、価格の高騰の要因のようです。

弊社農園でも、この影響によりパセリ畑のおよそ30％と、トマトハウスの25％が水浸しになり、収穫ができなくなるという厳しい状況になりました。他の地域では、農作物が全滅したところもあると考えると、ましなほうなのかもしれませんが、四月から手塩にかけて栽培し、ようやく収穫が始まったところでこのような状況になるという、非常に悲しい思いをしました。

しかし、私たちは前を向かなければなりません！何とか最低限必要な収量は確保して、今年は終わりましたので、弊社の商品を楽しみにされている皆さん、ご安心ください。

今年は、野球では北海道日本ハムファイターズが日本一になりました。サッカーでも、コンサドーレ札幌がJ1への昇進をほぼ確定しております。色々ありましたが、最後には道民全員が元気になれる出来事もありました。

来年は、もっと良い年になりますように、社員一同頑張ります！

和

みなさんは、
「有機栽培」と「無農薬栽培」の
違いはわかりますか？

この両者、結構同じ意味だと認識している方が多いのではないでしょうか。
しかしながら、「有機栽培」と「無農薬栽培」には、かなり大きな違いがあります。
今回は、この違いについて考えてみたいと思います。

「農薬」とは？

そもそも「農薬」とは、どのようなものをいうのでしょうか。農薬取締法には、下記のように定義されております。

「農作物を害する病害虫の防除に用いられる殺菌剤、殺虫剤その他の薬剤、及び農作物等に用いられる成長促進剤等の薬剤をいう」

上記だけ見ると、化学薬剤を想像するかもしれませんが、実際には･･･

木酢液等の自然物や、農作物等の病害虫を防除するための「天敵」も農薬とみなす

とされています。そのため、例えば、アブラムシを駆除するために放すてんとう虫も「農薬」と定義されます（天敵農薬）。

害虫を駆除するために放たれるてんとう虫も農薬となる

　このように、農薬はものすごく定義が広く、化学農薬だけではなく、江戸時代から使われている農家の知恵（例えば、虫よけのために酢や牛乳などの自然物を使用する等）や、上述したとおりの天然農薬も、「農薬」として定義されます。

　このように、同じ「農薬」のくくりでも、全てが危険なものではなく、世間一般で「農薬が危険なもの」と考えられているのは、「化学農薬」のことなのです。

「無農薬栽培」の定義と問題点

無農薬栽培は、その名の通り農薬を一切使用していない状態のこと言います。しかしながら、多くの「無農薬栽培」を謳っている農家は、

「化学農薬」を使用していない ＝「無農薬栽培」

としているところが多く、農家ごとに、「無農薬栽培」の定義にバラツキがあります。

多くの農家はこのような機械で農薬を撒くため、飛散する可能性が高い。

では、なぜこのようなバラツキがでるのでしょうか。それは「無農薬栽培」かどうかは各農家の自己申告であり、それが事実かどうかを確認する機関が存在しないためです。そのため、極端な話、農家が実は農薬を使用しているにもかかわらず、嘘をついて「無農薬栽培である」と言っても、誰も検証できないのです。

　また、仮に無農薬栽培を謳っている土地が、実際に農薬を一切使用していなかったとしても、周囲の農地で農薬を使用していた場合、その農薬が当該農地に飛散する可能性があります。この点についても基準が一切存在しないため、消費者は全く検証ができないことになります。

有機栽培の意義

有機栽培とはどのようなものを言うのか、JAS 法では次のように定義されております。

①有機栽培として使用できる農薬以外の農薬（化学合成農薬等）と化学肥料を、種まきや植え付けの２年以上（多年生作物の場合は最初の収穫の３年以上）使用しない田畑で、栽培したもの。
②①の要件を満たし、生産から出荷までの生産工程管理・格付数量等の記録を作成していること。
③農林水産大臣に登録された登録認定機関の認定を受けること。

認定機関名

	有機栽培	無農薬栽培
国の認定制度	○	×
商品への表記	○	×
検証可能性	○	×
抜き打ち サンプルチェック	○	×

つまり、栽培する作物について「どのような肥料、農薬を使い」「それが有機栽培として認定されるものであることを、全て証明できる記録、書類があること」が必須条件となっており、それをもとに認定機関からの厳しい検査を合格した農家のみが、有機栽培を謳うことができるのです。

　また、有機認定を受けるためには、周囲の環境についても厳格な基準が適用されます。多くの場合、周囲の農地は有機認定圃場ではないため、周囲の農地で使用された飛散農薬が有機認定を受けようとする圃場に届くケースがあります。この場合、その圃場は有機認定を受けることができません。そのため、有機認定圃場となるには、周囲の農薬を使用する農地から、飛散農薬が届かない程度の距離を確保する必要があります。

有機栽培で使用できる農薬

使用できる農薬は、全て農林水産省側でリストアップされているものであり国際規格に沿った安全性が担保されたものです。こちらは、国際的なルールであるため、EU 諸国やアメリカ等、JAS 制度と同等の制度を有する国には日本で有機認定を取得している有機食品はそのまま輸出することが可能です。また、同等国から有機食品を輸入することも可能です。

①生物農薬製剤（BT 剤）
BT 菌が、チョウ目やガ目を防虫する効果があることを利用して散布する生物農薬製剤で、人体のみならず生態系への影響が殆どありません。
②炭酸水素ナトリウム（重曹）、窒素など、明らかに無害であることがわかっているもの
③植物等から抽出した成分で、安全性の高い天然由来物質。（シイタケ菌抽出物液剤、除虫菊乳剤等）

このように、「有機栽培」は制度によって安全性が担保された国際規格に沿った栽培制度です。抜き打ち検査などもあり、少なくとも全く検証方法のない「無農薬栽培」と比較して、相当の安全性が確認された栽培方法であるといえます。
私達サンユー農産は、有機栽培認定圃場で野菜を栽培することで、安心、安全な商品を提供しているのです。

健康村 コロポックルの里から
最新情報は Facebook でも発信中！ いいね！
サンユー農産　フェイスブック　検索
https://facebook.com/korop.niki/
ホームページ http://www.korop.com
有限会社 サンユー農産 〒063-0824 札幌市西区発寒４条４丁目 9-24 TEL 0120-560-963 FAX 011-668-1187